

令和4年10月6日(木)

いちご一会とちぎ国体 派遣報告

期 日：令和4年10月2日（日）～3日（月）

場 所：日環アリーナ栃木

報告者：川井 剛

【10月2日】成年男子1回線 富山県 — 茨城県

CC：伊藤（京都）U1：山崎（栃木）U2：川井

〔PGC〕

・それぞれが今課題としていることや取り組んでいることの共有

・判定について→ペイシエントホイッスル

当たったから／やりに行ったから ×

オフェンスがやりたいことをできなくなったから CALL

選手の能力を最大限発揮してあげること → いいゲームに

→成年男子というカテゴリーなので

予防的に吹くこともある 公平性 インテンシティー

ゲームのフローを感じ取ってレフェリーがコントロール

〔ゲームについて〕

前半、クルーがそれぞれのプライマリーでイリーガルなものをコールし、それに対して選手やコーチもアジャストしてくれたため、スムーズにゲームが進行した。

後半に入り、最後までどちらが勝つか分からない展開だったが、タイムアウトのたびにCCの伊藤さんが現在のゲームフローを共有してくださり、クルーが同じ考えを持ってゲームを進めていくことができた。

〔ゲーム後の振り返り〕

伊藤さんより…いろいろと考えてチャレンジしているところが感じられて、よかった。

もう一つ上のステージに行くために、強く決断をしないといけない場面があったのではないかと。手をあげかけてやめたケースがあったが、ファウルと判定したなら強く示せばいいし、違うなら上げなければいい。そこを明確に判断できるための情報収集を事前にどれだけできるかが大事。

映像を見て …ゲーム序盤のブロック or チャージの際、力強くプレゼンをしたように思っていたが、映像で見ると慌てているように見えた。ビックインパクトだった時に、もっと大きく、落ち着いて力強さや自信を見せられるようにしたい。同様のケースで、プライマリーではないところでブロックチャージ or エルポーのケースがあり、「あっ」とは思ったが反応できずにいたところ、一番遠いところからCCの伊藤さんが決断をしてくださった場面があった。ゲームを正しく進めるために必要なCCMが、まだまだ自分には足りていなかった。

【10月3日】少年女子2回線 栃木県 — 宮城県

CC：柏原（徳島）U1：川井 U2：久保（千葉）

〔PGC〕

- ・ベーシックなメカニクスの確認
エリアも大事だが、アングルを持っている人はしっかりとコール
- ・PCG・・・手については特にしっかりと
明らかなものを吹いていく 微妙なものは吹かない
ゲームフローを感じながら、正しく進めて、終わらせる
レフェリーがコート内で起こっていることを知っていること
前日に観戦した宮城県の情報共有 プレスの際のCの役割

〔ゲームについて〕

前半、どちらのチームも無理な攻め方や守り方をしなかったため、ほとんどファウルコールがない展開だった。宮城県のプレス対応や、栃木県のダブルチームへの対応は、カンファレンス通りCが残ることで対応することができた。

後半に入り、両チーム共に力強いドライブでリングにアタックする回数が増えた。その際、ドライブを始まりから捉えているTやCが最後まで接続してコールをするクルーワークがあった。また、TやCが見ることができない最後の手の絡みなどは、Lからコールすることで、クルーとしてしっかりと判定をすることができた。

〔ゲーム後の振り返り〕

柏原さんから・・・CとLでダブルコールがあった際、アイコンタクトまでOKだったが、どちらがプライマリーとしてテイクした方が良かったか、検証したい。
Lで上からのドライブを待ち受ける際、もう少し広がることで見える景色が変わる。

個人的な反省・・・ダブルチームがあった時に、シリンダーファウルかどうかの見極めをしたつもりではあるが、まだまだ慌てた中でのコールのように思えるので、全体像を把握して、そのプレーをより長く見て、判定できるようにしたい。EOGの場面でショット後に急な交代があり、クロックが少し流れてしまった場面で、正しく修正することができた。

【全体を通して】

ブロック国体の際に講師の方に助言をいただいたこと（難しい判定を無理してしない）を、実践の中で意識をすることができた。反省でもあったように、もっと事前の情報収取をして、あきらかな影響が見えるまでがまんすることにトライしたい。

国体という場に立たせていただき、来年度、地元で開催されるゲームのレベルを肌で感ずることができたので、県内の研修会で共有し、ノミネート審判員全員が自信を持ってコートに立てるように準備を進めていきたい。